

「岩代町誕生」

昭和30年1月1日生まれ。
活力ある町を目指し、「岩代町」誕生。



昭和のはじめの町並み



昭和25年頃の共同作業の米俵作り



昭和26年頃の藤町付近



昭和27年二本松・津島間国鉄バス(小浜)

未来にはばたく町を目指し、
小浜町、新殿村、旭村と、太田村の
一部が合併。町名は一般公募で「岩代」に
決まりました。

時

時代は明治に移り、明治9年8月に現在の福島県が成立、岩代町では明治22年4月1日の町村制施行と同時に小浜・新殿・旭・太田村が誕生、小浜村は明治34年に町制を施行、小浜町となりました。その後、日清・日露戦争や相次ぐ凶作、鉄道の開通、電力供給、教育体制の変化など様々な時代の変化を経て、明治から大正、昭和へと時は移り、さらに太平洋戦争敗戦の痛手からも立ち上がり、「岩代町」の誕生へとつながります。

昭和28年9月1日に公布された町村合併促進法により、小浜町、新殿村、旭村と、太田村の一部が合併して昭和30年1月1日、新生「岩代町」が誕生しました。役場は小浜に設置され、町名は一般公募の中から「岩代町」とすることが決定しました。合併時の戸数は2,577戸、人口16,950人、町の面積は96.72平方キロメートルでした。その後、昭和39年に東和町との境界変更が認められ、98.42平方キロメートルとなりました。

新生誕生した岩代町は10か年に及ぶ建設計画を策定し、活力ある町づくりに着手しました。人口、雇用、所得・生活水準、産業計画にまで多岐にわたり具体的に盛り込まれた計画は、町振興の大きな原動力となりました。そして、社会構造の変化とともに、その後も振興計画が立てられ、着々と豊かな住みよい町づくりが進められています。



旭村

合併前の岩代町領布図

